

平成21年度 森プロ事業実績：飛騨高山森プロ

(平成22年3月末現在)

	H20年度	H21年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	85	114	50	44%		348	
作業道(m)	5,843	4,500	7,215	160%		25,000	
間伐等	面積(ha)	23	75	27	36%	利用+切捨	309
	材積(m ³)	1,360	2,700	4,998	185%		11,100
備考	団地外実績(利用間伐20ha、搬出材積1,600m ³ 、作業道開設1,600m)						

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

3,000 円/m³

施業集約化の状況

- ・ 曾手地区に引き続き旗鉾地区の座談会を開催し平成21年8月末までに所有者同士で境界の杭打作業を完成した。その後、森林調査に基づき森林施業提案書で契約した。

施業プランの活用状況

- ・ 提案書を作成して、所有者と事業契約を進めている。

施業プランナーの養成状況

- ・ 昨年に引き続き、現地調査等通じて3名育成中である。
- ・ 森林整備職員も徐々にではあるが、指導中である。



測量・調査

作業道の状況

基本的には、昨年度と同様に開設した。

- ・ 基幹道の幅員は3.6mを基本にしている。現状の高性能林業機械の大きさや、将来に向けた木材生産を考慮した。
- ・ 線形及び配置については、スイングヤードによる集材距離を30m以内を目標に配置した。
- ・ 7,215mを開設したが、フォワーダ道は出来る限り少なく、ほぼトラック(10t)が入れる規格及び路盤を確保した。
- ・ 山作り、森林整備はまず道作りからと考え、ha当たりの路網密度は100m以上を目標にした。
- ・ 現地は黒土で軟弱であり、時期的にも悪く路盤を固めるのに苦労した。団地内にて山土砂を確保出来たため、路網開設コストを抑えられた。



本線および支線



山土砂による安定基盤の確保

作業システムの状況 H21 木材生産性 5.1m³/人・日

- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(グラップル0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)

取り組んだ内容

- ・ 路網密度の目標をha当たり100m以上に設定した結果、グラップルによる直接集材が7割程度となった。



その他

- ・ 『美しい森林づくりin飛騨国府』というタイトルで、飛騨農林事務所・高山市・飛騨森林管理署が共同で研修会を開催した。
- ・ 高山市森林づくり委員会・飛騨高山森林組合の主催により、国府町民を主な対象とした研修会を森プロ団地で12月7日に開催した。
- ・ 説明の内容は、高密路網開設による高性能林業機械を駆使した低コスト搬出間伐(現地研修会)及びパワーポイントによる間伐及び補助金等の概要(国府文化ホール)。
- ・ その他各地域の林業グループ等による現地研修会を受け入れた。



JICA研修について

- ・ 2010/10/16JICAによる視察(20名)を受け、プロジェクトの概要説明や高性能林業機械の実演を行った。



融雪後の森林巡回結果について

- ・ 巡視した結果、今冬は豪雪であったが、間伐後の林分では雪害は確認できなかった。
- ・ 作業道についても同様に、路肩決壊等の被害は確認できなかった。

フォローアップ委員会(11月18日)

- ・ 民間事業者と積極的に連携し、当初計画以上の実績を確保したことなどにより、プロジェクトの実績は概ね評価された。
- ・ 残存木の損傷が著しい事を指摘された。間伐の目的を再認識し、道作りや間伐の技術研磨に努めることを求められた。
- ・ 生態系の回復状況(野鳥の鳴き声等を観察)を作業日誌に記録するなど、間伐実施後の効果測定にも取り組むよう指導を受けた。
- ・ 作業道近辺の林地残材を使い切る工夫を重ね、地域社会に貢献すべきといった指導も受けた。
- ・ 県内外からの視察者を積極的に受け入れ、モデル事業としての説明責任を発揮している事を評価された。



森プロの成果 昨年に引き続き同様の成果が得られた。

森林組合と森林組合員との関係

- ・ 座談会等で路網の必要性及び路網密度の重要性を理解していただき、計画以上に開設できた。
- ・ 各種研修会の開催によって間伐の必要性、また、路網の必要性が組合員に浸透してきた。

森林組合について

- ・ 職員会議等で森プロの概要説明や現地研修会等を開催した。特に搬出間伐を進めていくうえでの路網密度や路網配置が参考になり、今後の事業地確保に弾みがついた。
- ・ 課長級による森林整備会議を新たに発足し、森林整備に関する組合の経営戦略について毎月1回検討を重ねたことで、職員間の意志疎通が図られた。

森林組合と飛騨農林事務所等との関係

- ・ 管内の地域座談会に県職員が同席し、県の立場から説明・指導をしてもらったほか、高山市林務課も地域座談会に参加することとなり、三者の協力関係が密になってきた。

JV構成員について

- ・ 日和田林産(有)及び(有)山下林業については、予定通り搬出間伐を実施した。事業者についても高密路網による搬出間伐の必要性が理解された。

今後の課題

- ・ 森プロを契機に広大な飛騨地域の森林管理を進めていく上で森プロ第2の団地を実行していきたい。
- ・ その為にも今回の森プロ団地で組合員を対象とした研修会をこまめに開催し、地域の森林整備を進めていく。